【資料2】

R6年度
「心の絆プロジェクト」代表者ミーティング　まとめ

ダイバーシティ（多様性）について考える
～見えかた・聞こえかた・感じかたの違いを通して～

当日の流れ

１　開会

２　趣旨説明

「心の絆プロジェクト」代表者ミーティングについて

３　自己紹介

４　講演会

・日本のいじめ、不登校生の件数などについて

・ダイバーシティについて

・認知特性について

・情報量の多い「視覚情報」の不安定さについて

５　グループワーク

・講演会から「わかったこと」・「思ったこと」・「気づいたこと」

・私たちにできること

６　閉会

講師・ファシリテーター
関西国際大学
百瀬　和夫　教授

令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

一部抜粋　（文部科学省）

●小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は（681,948）件と児童生徒1,000人当たりの認知件数は（53.3）件ある。

いじめ防止策推進法第28 条第1 項に規定する重大事態の発生件数は（923）件である。

●小・中学校における長期欠席者数

460,648 人（前年度413,750 人）

・うち，不登校児童生徒数 299,048 人（前年度244,940 人）

・在籍児童生徒に占める不登校児童生徒の割合

3.2 %（前年度2.6%）

いじめ・不登校ともに年々増加傾向である。

Q.『ダイバーシティ』ってなぁに？

●ダイバーシティ（diversity）の語源はラテン語。

「di」「vers」の2つに分けられ、それぞれ意味があります。「di」ダイは離れる、ばらばら、「vers」バースは向き、方向転換するという意味。

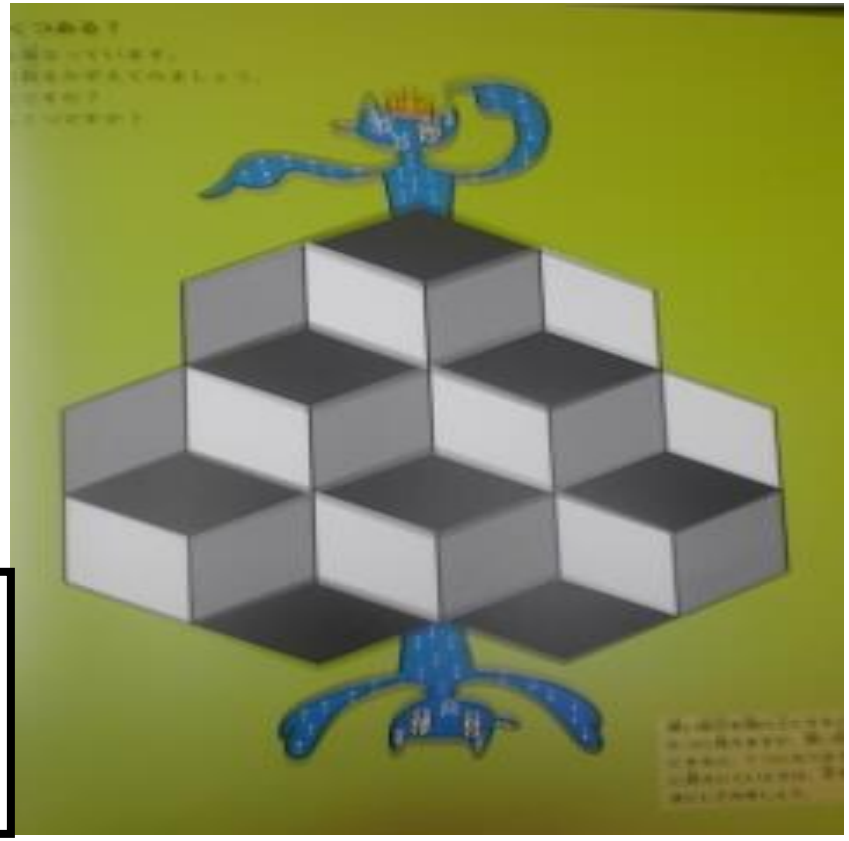
異なるものが共存し、多様なものが一緒に存在する状態を表現するために使われた。

●つまり、ダイバーシティ（Diversity）とは、**多様性**を意味する言葉で、人種や性別、宗教、価値観、障がいといった様々な属性をもった人達が、組織の中で共存している状態のこと

Q.『認知特性』ってなぁに？

●認知特性とは，目で見る，耳で聞くなどの五感を中心とした感覚器から入ってきた様々な情報を、脳の中で「整理」「記憶」「理解」する能力のこと

●つまり、同じ情報を見聞きしても，誰もが同じ方法で整理したり、記憶したり，理解したりしているとは限らない。人にはそれぞれ認知の仕方に得意不得意がある。



例）右図を見てると、立方体の箱が6個、7個、10個、30個以上と人それぞれによって見え方が違う

＜人が他人から受けとる情報の割合＞

A　言葉の内容　…　7%
B　声の質・語調（高低、大きさ、テンポなど）　…　38%
C　表情・態度　…　55%

Ar. メラビアン（米；社会心理学者）

☆対面1秒間の情報量は…

Q.1秒間に五感からどれほどの量の情報を取り入れて
いるでしょうか？　　A.1100万要素以上

●両目だけで、1000万　要素以上の情報を脳に送信している。
●その内、40　要素を脳で処理する。

脳で大幅に制御して、処理するようになっている。

子どもたちの意見

わかったこと

・言葉の内容よりも、表情や態度から情報を受け取っている。

・人が他人から受け取る言葉の内容は7%しかない。

・相手との違いを理解することで、人間関係がよくなる。

・人によって言葉の受け取り方が違うのだとわかった。

・自分が見ている・聞いていることが正解とは限らないこと。

・人によって受け取る情報に差がある。

・多数派、少数派に分かれても、同じことを思っているから正しいといって少数派を責めるのは間違っている。

・人には個性があって、認知の仕方には得意不得意がある。

思ったこと①

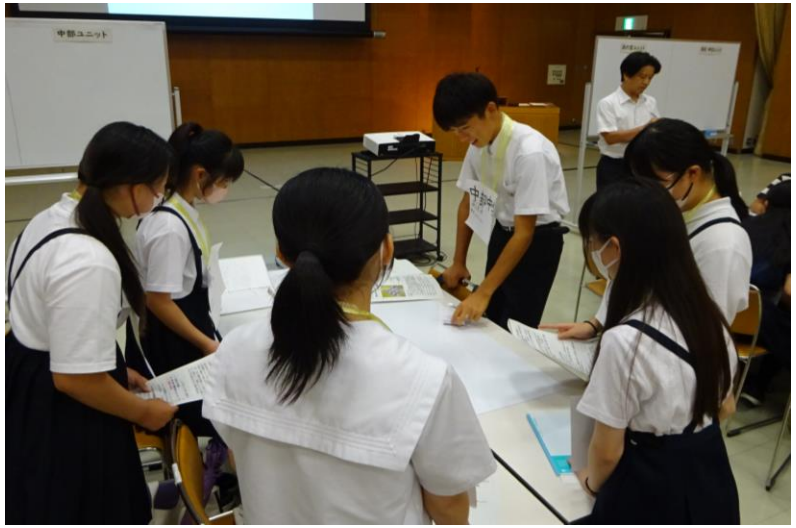
・年々いじめの件数が増えていることを知って、自分に何かできないかと思った。

・いじめはやめなければいけない、身近にあると思った。

・いじめ防止を呼びかけているのに増えているのはなぜだろう。

・偏見を持たず、相手の事を理解し、思いやりの心をもつことが大切。

・普通というのは一人一人違うということ。



・いじめが多いことに驚いた。

思ったこと②

・自分がこうだからと決めつけずに相手が自分と違うことを理解することが大切。

・多様性についてみんなあまり理解していないのではないかと実感した。

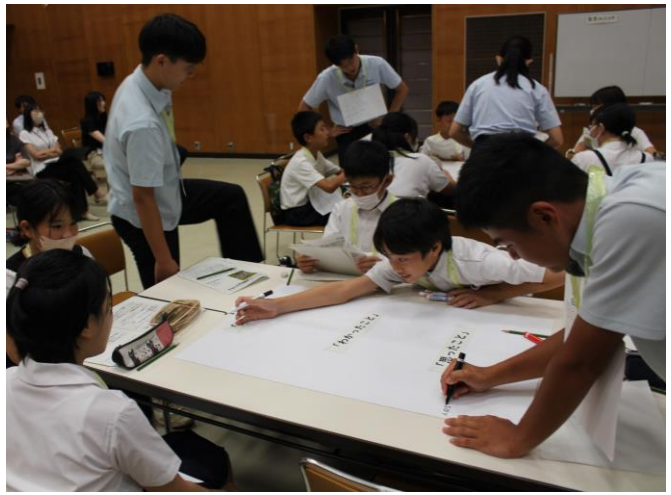
・「人の認知はみんな違う」ということをいろいろな人に知ってもらわないといけないと思った。

・人と会話する時はいろいろな人がいるということを考えながら会話しようと思った。

・みんなの意見が全てじゃない。

・普段の学校での性格や様子、立場によって伝わり方が違い、発言に有利・不利があるかもれない。

・学校の先生、全員に聞いてほしい。



気づいたこと①

・インターネットなどで会話できるのはいいことだけど、相手の表情などがわかりにくかったりするから、しっかり人と顔を合わせたりすることが大事。

・「世の中で一番大切なものは〇〇です。」と1つに決めつけるのではなく、色々な人の大切なものを多様性だと認めることが大切。

・他人から受け取る情報の割合を知っている方がいじめは減る。

・いじめや被害が増えてしまっているのは、他人に自分の「ふつう」をおしつけている。

・相手の立場で考える事が大切。

・捉え方の違いを意識しないといけない。

気づいたこと②

・人によって認知の仕方に得意不得意があり、そのことをみんながわかっていないから、いじめが起こる。

・人によって感じ方や考え方が違うので、できる・できないの差が生まれる。

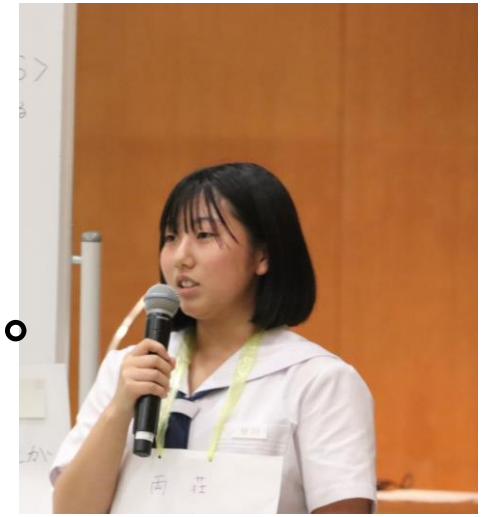
・人によって聞いた事や思った事を整理したり記憶できたりすることはちがう。

・アンコンシャスバイアスは家庭・職場・学校でも問題となっている。

・人と関わることは簡単そうで実は難しい。

私たちにできること

・まず相手をよく知る。 → 会話をよくする。
・相手に何か伝えるときは、表情や態度にも気をつける。
・自分の感情だけではなく、相手目線になって物事を考える。
・自分と考えの違う人がいても、多様性として認めていく努力をする。
・小人数の意見も大切に良く話し合う。
・1つのテーマに対して、思うことをディベートする。
・相手との違いを知ることで、その人に合った対応を考える。
・みんなと仲良くする。（誰とでも）
・コミュニケーションをとる。
・人の意見を否定せず、受けとめる。
・話す時間を増やす。

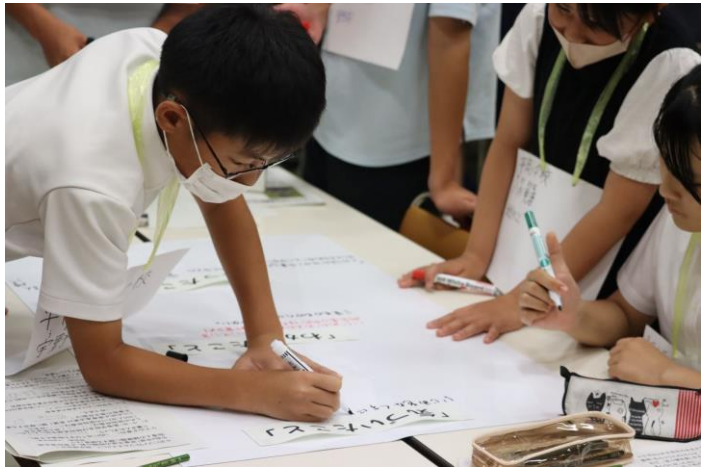


話し合う時間を増やしたり、相手の意見に耳を傾けたりするなど、コミュニケーションを大切にしたい。

・「みんな違う」ということを学校で伝える。
・学んだことをみんなに伝える。
・それぞれ違うことをみんなに知ってもらう。
・違いを個性と言い換える。
・相手の感じ方と自分の感じ方に差があっても認める。

・人の認知は必ずしも皆同じではないことを学生、教員に知らせる。
・打ち明けやすい環境づくり。 → 匿名お悩み相談アンケート。（生徒会等）
・自分の芯を持って生活。 → 周りに流されない。（いじめの感染力減）
・SNSの使い方を見直すこと。
・多数決で何でも決めない。
・少数派の意見にも耳を傾ける。

認知特性や個性など「みんな違う」ことを知ってもらい、少数派の意見も大切にしたい。



見えかた・聞こえかた・感じかたが「みんな違う」ことを知り、一人一人を知るためにもコミュニケーションがこれからもっと増えることを願っています。

そして、一人一人の意見を大切にすることで「誰もが行きたくなる学校・学級づくり」が一歩でも前進することを願っています。